15 越ヶ谷宿～粕壁宿

埼玉県越谷市

越ヶ谷宿 ～ 北越谷

（ 歩行距離 1547m 18分 ）

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp

coffee time

千住馬車鉄道

明治26年2月～30年3月まで千住茶釜崎から粕壁最勝院まで千住馬車鉄道が通っていた。1頭立てで乗客定員12名、6人が向かい合って座り、駅者車掌が乗って千住～粕壁間40kmを3時間かかって運行されていた。（乗合馬車の2倍の早さ）大沢駅は大松屋（本陣）前、大沢～千住茶釜崎まで途中草加馬と乗客が一休みし片道40銭、約2時間を要した。千住からは2頭立ての乗合馬車で浅草広小路まで行くことができた。東武鉄道開業により明治33年2月2日に廃業した。

越谷宿の伝馬負担

伝馬屋敷（表間口6間以上）は馬一株につき1疋負担。歩行屋敷（表間口6間未満）人足1人負担（馬1疋は人足2人分に相当する）

越ヶ谷町　伝馬役120軒半、歩行役21軒。大沢町　伝馬役73軒、歩行役5軒（宝永4年 1707）。伝馬役・歩行役の屋敷株を所有した者が本百姓身分として町政に参加できた。その他の者は地借店借と称され身分が区別されていた。

越谷宿の問屋場

問屋場は当初、名主宅持ち回りであったが、宝永4年2月中町の名主会田五郎平宅、大沢町名主江沢太郎兵衛宅の2カ所に定着した。問屋場の経費は、越ヶ谷町85軒、大沢町55軒の合計140軒の伝馬役1軒2両3分の出金・合計385両で賄われていた（安永2年の定め）諸経費の内訳は帳付け、人馬差しなどの給与、事務用品、本陣御用宿の補助、人馬買上賃など。

越谷宿の食売旅籠屋

越ヶ谷宿文化文政期（1804～29）飯盛旅籠屋22軒大沢下組に集中していた。享保年間までは江戸の女がほとんどであったが、その後、越後からの女が多くなった。文政10年（1827）飯盛旅籠屋1軒あたり銭105貫500文町銭として納めた。明治6年食売女解放令により衰退する。

本陣大松福井家（きどころパン店）

⑰岡埜製菓

⑮大野屋

⑭米長乾物店

⑬天麩羅蒲焼「稲荷屋」

⑯市神社

⑲本陣大松福井家跡
越ヶ谷宿の本陣は当初越ヶ谷本町の会田八右衛門が世襲で勤めていたが、安永3年（1774）没落、越ヶ谷町から退転した。名主、問屋、本陣、3役兼帯、その後、照光院が仮本陣を務めるが、安永9年大沢町の福井権右衛門家が明治3年の本陣脇本陣廃止まで続く。

⑱饂飩屋
元和1年（1615）創業の温飩屋があった。フランスギメ美術館の創始者エミールギメも訪れスケッチを残したしかし、平成23年（2011）火災で焼失した。

梅花山照光院　鐘楼は安永8年(1779)6月鋳造。三ノ宮一乗院末、樽不動を安置し。せり「新編武蔵風土記稿」「明治10年2月この地に大沢小学校開校さる」の碑。福井家が天明元年（1781）に本陣を引き受けるまでは仮本陣をつとめていた。

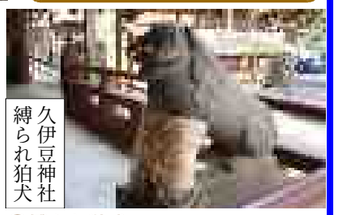
弘福院

久伊豆神社

平田篤胤
江戸後期の国学者。日本古来の神道を主張し、儒教と仏教を激しく攻撃し、幕末の尊王攘夷運動に大きな影響を与えた。越谷の富商油屋山崎長右衛門は篤胤の門人で、越谷の納豆屋の娘おりせを後妻に世話をした。

⑳弘福院
円空作による阿弥陀如来の坐像（総高36.87cm）で優れた作品がある。
埼玉県内に残された円空仏は元禄2年（1689）日光山登山へ向かう途中に彫刻されたものといわれる。
弘福院の円空仏も同年のものとみられている。円空は寛永9年（1632）美濃国竹ケ鼻の生まれ、幼年にして仏門に入り白山頂上などにこもって修業を積んだが、富士山頂での修業には霊感をうけ仏像十二万体を彫ることを念願したといわれ、全国各地を歩いて木彫仏を残したが、元禄8年（1695）美濃国弥勒寺前の長良川河畔で生定した。生年六十三歳（越谷市教育委員会掲示より）

越ヶ谷の由来
台地の麓の低湿地帯の意味で、古利根川と綾瀬川に囲まれ、中央に元荒川が蛇行して流れる低湿地帯だった。穀倉地帯で江戸城下への野菜の供給地でもある。
越ヶ谷町は奥州街道（のちの日光街道）の宿場町として誕生しましたが、はじめ、町は本町と新町に分けられましたが、土豪会田出羽が所有していた土地があり、そこを中町と名付けました。


久伊豆神社
縛られ狛犬

㉙久伊豆神社
「宿の東のかたに久伊豆大明神といふ大社あり。所の鎮守なり。久伊豆三左衛門といふ人をまつりしよし」（日光道中行程記安見絵図）
久伊豆神社は、古来より四丁野村、越ヶ谷宿、大沢町、瓦曽根町、神明下村、谷中村、花田村の七ヵ村の総鎮守でした。国学者平田篤胤の寓居「松越庵」、その門人が寄進した藤棚、参道には土井晩翠の歌碑「気吹の屋いづみの霊の宿れりし　あとなつかしき越ヶ谷のさと」がある。越谷吾山の「出る日の旅のころもやはつかすみ」の歌碑もある。
延宝3年（1675）に建てられた手水舎は、「登龍門」の彫刻がある。

㉗二郷半領の碑（場所未確認）
参道の中程には、二郷半領の碑がある。二郷半とは江戸初期、吉川・彦成の二郷と彦成以南は下半郷とし、合わせて二郷半領と呼んだという。

久伊豆神社参道入口藁の鳥居

天嶽寺

㉕天嶽寺　この寺は城砦といわれ、家康、秀忠、家光も狩猟の時に訪れていたという。
山門は黒門で、境内中ほどには赤門がある。黒門は四代住職が正親町天皇の第三皇子であったので、門の屋根に菊の紋章の鉄鋲が施されている。赤門は家康より寺領高15石が寄進された時に許されて建立されたと伝えられている。
本尊は「木造釈迦如来涅槃像」は普通の立像、座像とちがいきわめて珍しい。

㉖越谷吾山
越谷市出身の江戸中期の俳人で、わが国初の方言の研究書「諸国方言物類称呼」を著した越谷吾山の墓と句碑がある。「ひとつるべ水の光やけさの秋」
入口の庚申塚に宝永年間（1673）の庚申塔、元禄8年（1695）の青面金剛庚申塔などがたくさんある。参道には「か八しも二郷半、川かみかすかべ」と刻まれている。

越谷御殿跡碑

㉑越ヶ谷御殿跡
徳川家康によって慶長9年（1604）に設けられた御殿で、その広さはおよそ現在の御殿町全域と推定されている。
「此宿字大沢板橋脇四、五町右之方に字御殿場と申所有レ之、寛文之比（1661～73）は御殿有レ之由申伝ふ」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）
当初この地は越ヶ谷郷の土豪会田出羽の陣屋があったが、家康が増林にあった御茶屋御殿を移し、家康・秀忠などがしばし訪れて泊まり、鷹狩をしていた記録が残されている。明暦の大火（明暦3年1657）で江戸城本丸、二の丸の復旧のため移築されたが、文久年間（1861～1864）に消失してしまった。

㉒葛西用水・逆川
「越ヶ谷御殿跡」碑の下を流れるのは、「宿内字元荒川有。幅大概四拾間程、橋渡也。此川水元は武州大里郡熊ヶ谷宿裏手より流れ来、流末は星川と落合、夫より古利根川と落合、夫より海上江落る」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）
万治3年（1660）幕府代官伊奈半左衛門忠克が利根大堰から水田の灌漑として取り入れ、葛西用水・逆川となり元荒川の下を潜る伏越となっている。

越ヶ谷宿の参勤交代
越ヶ谷宿は参勤交代で38藩以上が宿を利用した。弘化5年（1848）仙台藩伊達陸奥守の場合は、家来衆は玉屋彦右衛門（脇本陣）、虎屋伊左衛門（脇本陣）、かのふ屋富蔵など55軒。坊主足軽衆はめうが屋つめ、河内屋治郎左衛門、難波屋長治郎など21軒。小人衆は亀屋甚内、若野屋金次郎、住吉屋嘉助など14軒。日屋衆は小林屋、畑野屋など2軒。仙台藩一行は本陣を含め93軒に分宿。本陣には祝儀金3両3分、宿泊料金3両1分2朱と銀6匁5分、風呂代薪8把分、銭4貫文、手伝い人足4人文 銭800文、馬5疋の飼料代 銭2貫64文。

越谷宿本陣の食事
参勤交代で本陣に宿泊するお殿様の食事は、【夜】御平：椎茸、ゆば、長芋、竹の子、三つ葉　御皿：くわい、蓮根、かんぴょう、しいたけ、ひろゆば　御汁：しいたけ、焼き豆腐、青葉　香の物：大根の味噌漬け、しょうがの糀漬　御膳：米【朝】御平：あんかけ豆腐、しょうが　御汁：大根の千本切り　御皿：竹の子　香の物：大根の味噌漬け、大根の糀漬　【弁当】玉子焼き、こぶたけのうまに、よせ豆腐

6 越ヶ谷一里塚
日本橋から6番目の一里塚がある。痕跡が全くない。

建長元年板碑

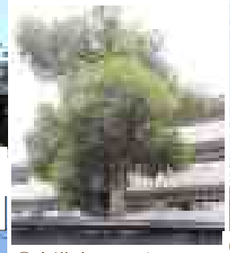
㉓建長元年板碑　市内で最古、最大の板碑で板石塔婆とも称されます。中世に流行した供養塔で、建長元年（1249年）の銘が刻まれています。高さ155ｃｍ、幅56ｃｍで弥陀一尊の梵字が刻まれ、鎌倉期の特徴がよく表れています。

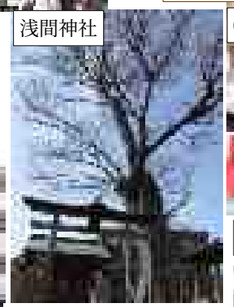
⑪会田金物店

⑫遠藤家の蔵

塗師屋（小泉市右衛門宅）

⑨塗師屋　「太物荒物店　塗師屋市右衛門」（東興商人鑑講）


⑥有瀧家のタブノキ
タブノキは、幹回り3.7m、樹高17m、枝張り（径）は10mである。樹齢は400年以上と推定される。


浅間神社
⑦浅間神社　文明8年（1476）の奉納になる御正躰が保存されている。境内のケヤキは幹囲7m、樹高23m、幹は地上6mのところで6本に分岐さらに上方で多数の枝を広げている、樹齢約600年。

⑩鍛冶忠（雑貨商）

⑧木下半助商店

⑤横田診療所

①新町八幡神社　文和2年（1353）銘の板碑を御神体としており、力石や絵馬なども残っている。

②田中米店

③行徳屋

④白屋旅館

大沢橋　江戸時代、境板橋と称されていた。明暦元年（1655）に関東代官伊奈半左衛門忠克によって架け替え工事がされているので、ここに橋が架かったのはかなり古い年代であると考えられる。

大沢池
大沢という地名は、昔、大小いくつもの池沼からなっていた沼沢地であった。長元7年に住人、深野源三郎という人が富士山に登り、大沢の滝から、影向石という石をもち帰って、浅間神社（いまはなくなっています。）をお祀りしたからという説もあります。

「蒲生村を過ぎ、越ヶ谷に着き、荒川橋を渡って大沢町の橋屋に泊まる。よい宿屋である。」（西遊草清河八郎）

問屋場江沢太郎兵衛屋敷跡
若松印刷、中田絵画教室南隣

脇本陣「虎屋」山崎次兵衛跡
八木橋学習会の南隣、生そば三舛屋あたり

脇本陣「玉屋」深野彦右衛門跡
深野造園の北隣あたり
脇本陣つちや（推定）

神明社　越ヶ谷六斎市（2.7日）の市神社である。

本陣会田八右衛門家は安永2年（1773）没落

「御成道鳩ヶ谷宿江出る道筋有レ之」（日光・奥州・甲州道中宿村大概帳）